

競技上の注意

バタフライ 第49回全国レディース卓球大会

審判長 今西法子

本大会は現行の日本卓球ルールを適用して実施する。

1 ボール・ラケット・ラバーについて

- ① 使用球は、株式会社タマスのバタフライスリースターボール R40+のみとする。
- ② ラケットはJTТАの刻印及びメーカーの商標がついたものを使用する。
- ③ 外国製ラケットでJTТАの刻印がないものを使用する場合は、競技開始1時間前までに「ラケット使用許可申請書」を審判長に提出し許可を受ける。
- ④ ラバーはJTТАまたはITTFが公認したことを示す公認ロゴ付きのものでなければならない。
- ⑤ ゲーム中にラケットを誤って破損した場合は、スペアラケットもしくは競技領域内で手渡された別のラケットで、すぐにプレーを再開する。

2 試合方法について

① 団体戦

- 1) 第1ステージは3ゲームマッチとする。
- 2) 第1ステージは勝敗に関係なく5番まで行い、得点の対象とする。
- 3) 第2ステージ1位トーナメントは5ゲームマッチとし、2,3,(4)位トーナメントは3ゲームマッチとする。
- 4) 第2ステージは全て3点先取とする。

② 個人戦ダブルス

- 1) 第1ステージは3ゲームマッチとする。
- 2) 第2ステージ1位トーナメントは5ゲームマッチとし、2,3,(4)位トーナメントは3ゲームマッチとする。

3 競技用服装について

- ① 競技用服装（シャツ、ショーツ、スカート）は、JTТА公認マークのついたものを着用する。
また主たる色は、使用するボールの色（ホワイト）と明らかに違う色（シャツの袖、襟を除く）でなければならない。
- ② 団体戦・個人戦ダブルスを組む選手は、靴と靴下を除いて同じ服装で競技しなければならない。
ただし、ショーツとスカートは同系色であれば着用できる。
- ③ 同色系の服装による対戦を避けるため、明らかに色の異なった2種類以上のシャツを用意すること。
団体戦はオーダー提出時にユニフォームを確認するので着用予定のユニフォームを持参すること。
個人戦は、競技領域に入った時点で審判が確認する。
- ④ 競技用服装以外に、サポーター・リストバンド・ヘアバンド・スパッツ（膝より上の丈）を着用できる。
その場合のメーカーの商標・ロゴは1箇所、日本卓球協会公認用具指定業者のもののみ認められる。

4 アドバイス・タイムアウトについて

- ① 団体戦ではベンチに入る事を認められた誰からでもアドバイスを受けることができる。
- ② 個人戦では試合前に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。
- ③ 競技者は競技の連続性に影響を与えなければ、ラリー中を除きいつでもアドバイスを受けることができる。
- ④ タイムアウトの要求に関して競技者と監督の意思・要求が異なった場合、団体戦では監督の要求が優先される。
- ⑤ 本大会のタイムアウト制については、団体戦は準々決勝から、個人戦は準決勝からとする。ただし、1 位トーナメントのみ適用する。

5 促進ルールについて

- ① ゲーム開始後 10 分経過した場合は促進ルールが適用される。ただし、両競技者または組のポイントスコアの合計が 18 ポイントに達している場合、促進ルールは適用されない。
- ② 両方の競技者または組から要請があった時には、いつでも促進ルールが適用される。
- ③ 促進ルールが適用された場合、そのマッチの残りのゲームは促進ルールで行われる。

6 ラケットコントロールについて

- ① ラバーの張替えは指定された場所で行い、JTТА が公認しているシートまたは接着剤を使用すること。
- ② ラケット検査は、無作為にマッチ前に行う。

7 審判について

- ① 団体戦・個人戦（ダブルス）とも、主審のみ本部から配置し一人審判とする。
- ② ただし、各種目 1 位トーナメントの準決勝・決勝については主審・副審とも本部から配置する。

8 表彰について

団体戦・個人戦（ダブルス）ともに第 2 ステージ 1 位トーナメントの 1～3 位（ベスト 4）を表彰する。

10 その他

- ① 選手変更届・棄権届は、原則として所属都道府卓球協会・連盟を通して手続きする。ただし直前に変更が生じた場合は、開会式までに受付で手続きする。
- ② 団体戦においては試合開始時にオーダーに記載した選手全員が揃っていない場合は棄権扱いとなる。
- ③ 団体戦のオーダーミスは、オーダー提出時に確認された場合のみ訂正することができる。その後の訂正はできない。
- ④ オーダー提出は、試合開始予定 20 分前とする。
- ⑤ 競技運営上の都合により、試合コートの変更・複数台の使用・試合開始時刻の変更などがあるため放送に注意する。
- ⑥ 競技領域及びその近辺での携帯電話等通信機器の使用を禁止する。
- ⑦ カメラ・ビデオ撮影は、自チームの撮影用として 1 コートにつき 1 台が許可される。
- ⑧ 競技中に起こったケガ、事故については応急処置を施すが、一切の責任は負わない。
- ⑨ 大会中に発生した盗難については、一切の責任を負わない。